



人のために豊かさや便利さを提供する
土木を、生活のなかに浸透させていくこと。
「DOBOKU×カルチャー」
では、私たちと土木の距離を縮めてくれる、
そんなコンテンツを紹介します。

第五回

『土木の絵本』

【大切なことは目に見えない】



第1巻「水とたたかった戦国の武将たち」



第2巻「人をたすけ国をつくったお坊さんたち」



第3巻「近代土木の夜明け」



第4巻「おやといい外国人とよばれた人たち」



第5巻「海をわたり夢をかなえた土木技術者たち」

土木の役割や価値を一般の人々、とくに小・中学生の子どもたちに伝えたかった。「土木の絵本」シリーズは、そんな強い想いから始まった。著者の緒方英樹氏に改めてその発刊の趣旨を聞いた。「子どもたちと、私たちの暮らしを支える社会資本、あるいは土木に関わる業界、そういうつながりの距離があまりにも大き過ぎると日々感じていました。蛇口をひねれば水が出る。スマーチを入れれば電気がつく。当たり前のことに、というか当たり前だからこそ、その背景に土木の仕事があることにまで思いが及ばない」。

二七六名の小・中学生を対象としたアンケートでは、全体の半数以上の五六パーセントが「土木という言葉を聞いたことがない」「土木のことを知らない」と答えたという。土木という言葉から思い浮かぶことや言葉は?と「ダム」=六〇名。「土(道路)を掘る」「土木作業」=三三一名。そして「土に木を植える」=二三名。若年層の認知度の低さに落胆をしたが、この現状を開いたいという強い想いから、「土木の絵本」の企画が始まりたと緒方氏は話してくれた。

「欧米では『建造環境学習』という授業があり、若年層向けの絵本があるので、日本には土木に関する絵本がほとんどありませんでした。土木リテラシー、つまり土木に関する基本的な知識が不足している。これを伝えるためには欧米を見習い若年層の知覚に訴

え、感情や思考に働きかける『絵本』という媒体が効果的だと考えました。漫画も絵本と似ている紙媒体ですが、つには大きな違いがあります。一人で黙々と読み進める漫画に対し、絵本は読み聞かせができます。親と子、先生と生徒たちといった年齢が異なる方々に一緒に読んでもらい、土木事業について知つてもらいたいと思つたのです」。

出版が始まったのは平成九年、全五巻を五年がかりで制作し、全国二四、〇七二校の公立小学校に配布された。

「いきなり、土木とは・・・と技術や意義について一般の方に言葉で説明しても興味を示しません。そこで大河ドラマ等で馴染みのある戦国武将に着眼しました。有名な戦国武将が『実は様々な土木事業を行つていたんだよ』と紹介していくのが、『土木の絵本』第一巻の『水とたたかった戦国武将たち』です」。



緒方 英樹
(一財)
全国建設研修センター
事務局 特任専門役
土木学会
土木広報センター
土木リテラシー促進
グループ長
「土木広報論」で博士号
取得(2011)

「土木の絵本」全5巻シリーズの執筆、アニメ映画「パッテンライ」(虫プロダクション)の企画など、国づくりの歴史を若年層から大人まで分かりやすく伝える活動をおこなっている。

その後、民衆のため土木事業を行った僧侶に焦点をあてた第二卷「人をたすけ國をつくつたお坊さんたち」、明治から大正時代にかけて激動の時期に活躍した人物を紹介した第三～五巻

「おやとい外国人とよばれた人たち」、「近代土木の夜明け」、「海をわたり夢をかなえた土木技術者たち」を順次発刊していった。

「新聞や雑誌などでも取り上げられ、全国各地の教育機関や建設企業、個人の方からも問い合わせが相次ぎました。初めは適宜提供をしていましたが、公益事業としては対応しきれなくなってしまったので、書籍配布を止め

て当財団のホームページにPDFデータをアップして活用いただいています。配布を止めたら海賊版まで出回ったようですが、私たちの「土木の絵本」は、教育機関での出前授業やどぼくカフエ、建設企業での講話など活用が広がっています」。

丹念に作られた「土木の絵本」は小学校の総合学習や社会科の副教材として使われるようになっていく。そして、学校側からもつと気軽に見れる映像作品も欲しいという声が出てきて、第一巻から第三巻までをまとめた教育ビデオとして映像化した。さらに平成二〇年、日本統治下の台湾で烏山頭ダムの

建設に挑んだ土木技師、八田與一を中心とした劇場用アニメ映画『バッテンライ! 南の島の水物語』に結実する。ご覧になつた方も多いのではないだろうか。

「建設業界に対しても一般的の方はマイナスイメージを持ちがちですが、それを払拭するのは一筋縄ではないかもしれません。いきなり結果を求めるのではなく、まず、建設業界の役割や意義を分かりやすくきちんと知つてもらう必要があります。そのためにつくつた『土木の絵本』ですが、そこからどんどん派生している展開に土木広報の道筋を感じます」。

「土木リテラシーの普及を目的とした『土木の絵本』の試みは、土木関係者と教育関係者の連携を生み、教材や資料をサポートしながら土木が教育に組み込まれるという新しい動きだ。緒方氏の取組みは、土木業界の効果的な広報のひとつであり方を示している。



上・中／「土木の絵本」ページ抜粋。技術について詳しく記載しており、技術者が読んでも楽しめる構成となっている



左／「土木の絵本」の1巻～3巻を映像でまとめた「私たちの暮らしと土木」。20分間でまとまっている作品で多分野からの反響も大きい

PICKUP! DOBOKU×カルチャー 現在都内で開催中のイベントを紹介します!



特別展「下町の思い出 今年迎える周年記念展」 台東区立下町風俗資料館

平成29（2017）年は台東区政70年を迎えた記念すべき年でした。そのほかにも台東区の文化を象徴するいくつかの事柄が記念の年を迎えました。この特別展では、節目ごとにそれらの出来事をたどりながら、繙かれる歴史を「まちの記憶」として紹介します。

開催期間：平成29年12月2日(土)～平成30年2月25日(日)

住 所：東京都台東区上野公園2-1

主 催：公益財団法人 台東区芸術文化財団

台東区立下町風俗資料館